様式１

観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年　７月　31 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）下仁田町観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	群馬県甘楽郡下仁田町	
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町馬山 3766-11	
設立時期	平成 26 年８月 12 日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	５人【常勤２人（正職員０人・出向等２人）、非常勤３人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 神戸　康宏 （出身組織名） 神戸土木(株) 代表取締役	日本大学大学院卒・工学修士 神戸土木株式会社・代表取締役 株式会社イーエーシー・代表取締役 地域の社会基盤及び情報基盤整備に長きにわたり従事。その経験を活かし、DMO として組織の健全化とそのマネジメントやマーケティング、「観光まちづくり」に取り組んでいる。 ロック・ギタリスト「エディ・ヴァン・ヘイレン」への造詣の深さは、世界的に有名である。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 津金澤　英美「専従」 （出身組織名） 観光協会	東京都出身。アメリカ・ボストンに短期留学後、都内企業に約 20 年勤務。宿泊施設及び飲食業界での接客業務、美術工芸品や食品製造に係る企画やプロモーションに従事。経理や総務のマネジメント経験もある。その多彩な経験を活かし、当協会業務に取り組んでいる。旅すること、食すること、動物と過ごすこと、自然の中で過ごすことが趣味である。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 吉川　圭市「専従」 （出身組織名） 観光協会	高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科 井手拓郎ゼミナール出身 群馬県高崎市出身。大学にて都市計画や経営学など観光まちづくりに関わる幅広い分野について学ぶ。特にサードプレイスのデザインや、有休不動産の活用といった、まちづくり分野に強い関心がある。これらの専門知識を活かして業務に取り組んでいる。

様式１

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 津金澤　英美 （出身組織名） 観光協会	同上
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 津金澤　英美 （出身組織名） 観光協会	同上
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	下仁田町役場 商工観光課・商工観光係（マーケティング部門） 企画課・地域創生係及び政策推進係（社会資本整備・公共交通・移住定住等） 群馬県甘楽富岡振興局 群馬県富岡行政県税事務所、群馬県富岡土木事務所、群馬県森林事務所 （総合アドバイス、県立公園及び道の駅しもにたイベント支援） 群馬県環境森林部自然環境課　自然公園活性化推進室（県立公園管理受託） 群馬県環境森林部森林局林政課 林業イノベーション推進室（総合アドバイス） 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課（総合アドバイス、移住定住等） 群馬県産業経済部戦略セールス局ｅスポーツ・クリエィティブ推進課（総合アドバイス、フィルムコミッション） 一般社団法人群馬県森林・緑整備基金（総合アドバイス）	
連携する事業者名及び役割	下仁田町商工会 下仁田町森林組合 下仁田町飲食店組合 下仁田町旅館組合 下仁田建築業組合 下仁田まちづくり委員会 (公財)神津牧場 道の駅しもにた 高崎経済大学井手拓郎ゼミナール 下仁田ジオパーク協議会 下仁田町蒟蒻消費拡大推進協議会 上信電鉄株式会社 白石工業株式会社 東海ガス株式会社 (公益)群馬県観光物産国際協会 (一財)群馬県森林・緑整備基金 群馬県コンベンションビューロー ぐんまフィルムコミッション 西上州観光連盟	(情報提供と共有、イベントの共同開催) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (移住定住・空き家バンク制度の事業連携) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (マーケティング、イベントの共同開催) (DMO 推進事業検討及びマーケティング) (企画と共同プロモーション) (体験ツアーと共同プロモーション) (企画と共同プロモーション) (企画と共同プロモーション) (企画と共同プロモーション) (情報提供と共有、共同プロモーション) (情報提供と共有、共同プロモーション) (情報提供と共有、イベントの共同開催) (情報提供と共有、共同プロモーション) (情報提供と共有、イベントの共同開催)

	東急ハーベストクラブ　（着地型観光企画と共同プロモーション） 株式会社ＪＴＢ群馬支店　（着地型観光企画と共同プロモーション） 利根川ネットワーク　（首都圏事業者との連携） 東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）関東支社高崎管理事務所　（情報提供と共有、イベントの共同開催） 高崎商科大学地域連携センター　（産学連携・観光の共同研究及び企画） 富岡市世界遺産観光部観光交流課、高崎市商工観光部観光課、南牧村振興整備部情報観光課、上野村役場振興課、神流町役場、甘楽町役場、富岡市観光協会、上野村産業情報センター、安中市観光機構・藤岡市観光協会、高崎市観光協会、南牧村観光協会、長野県（軽井沢観光協会・佐久市観光協会） （情報共有、企画と共同開催、プロモーションなどを行う）
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	・DMO 事業推進検討会議 下仁田町商工観光課長、高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」井手准教授、こんにゃく手作り体験教室講師 佐々木氏、当協会代表理事、当協会 CMO の 5 名からなる会議体。まず当協会の現状把握と課題の洗い出しを行い、現時点で取り組める事業を検討後、新規事業を進めている。また、各検討委員それぞれの立場からの経験や意見を集約し、DMO 活動に反映させる。 ・下仁田町観光協会定期総会 観光協会員出席のもと、理事会にて承認された事業報告及び新規事業案及び事業収支予算案を報告、また事業収支決算を審議し、可決された。 ・KPI 指標の開発及び下仁田町来訪者動向調査 高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」と協働及び連携し下仁田町来訪者動向調査を実施。KPI 調査を踏まえた課題整理を行なっている。
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	観光農園の整備、体験コンテンツの運営、イベント運営等で地域住民の参画を依頼し、当協会の事業に協働で取り組んでいる。 また、地元の有志で整備している公園の開園時期は SNS・WEB サイトを活用した情報発信、問い合わせ対応、バスツアー受け入れ等で協力。当協会活動への理解を得られつつある。

法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】**

事業	実施概要
情報発信・プロモーション	**<u>下仁田町観光情報及び体験コンテンツログ、スタッフ業務ブログ情報発信業務</u>** HP 及び SNS（Instagram、Facebook、X）の活用。 下仁田町の花の観光名所(あぶだ福寿草の里、群馬県立森林公園さくらの里、下仁田あじさい園)開園中、日々の開花状況を現地にて定点観測及び撮影し、正確な情報発信を行なった。 その他に、体験参加者の承諾を得て、こんにゃく手作り体験や下仁田ねぎ収穫体験の様子を公開、体験コンテンツ魅力発信を行なっている。また、スタッフが対応した業務報告（会議やイベント）をブログ形式で公開をしている。 **<u>・町外観光 PR イベント・物産展への出展</u>** 令和６年 7 月　NEXCO 東日本高崎管理事務所主催　東京湾アクアライン海ほたる PA 観光展（群馬県観光物産国際協会） 令和６年 10 月 NEXCO 東日本高崎管理事務所主催　関越自動車道上里サービスエリア観光 PR 展（群馬県観光物産国際協会）

		令和６年 10 月 特別区長会/（公財）特別区協議会主催 「令和６年度特別区全国連携プロジェクト魅力発信イベント」（下仁田町商工観光課より紹介。㈲産業開発しもにたと共同で物産出店。） 令和７年３月　下仁田町主催「下仁田町蒟蒻消費拡大イベント in GINGHAM」（共催：㈱上毛新聞社/協力：下仁田町蒟蒻消費拡大推進協議会、（一社）下仁田町観光協会） イベントに積極的に参加し、地道な PR 活動を行っている。どのイベントにおいても「下仁田ねぎ」と聞くと足を止める人が多く、ブランド力の高さを感じた。また、群馬県特に下仁田の特産品「こんにゃく」を PR するイベントが県庁にて開催。群馬県民をはじめ多くの方が来場した。今後も下仁田町と連携ながら、特産物「こんにゃく」の PR に積極的に取り組む。 **・第 34 回日本乳がん検診学会学術総会** コンベンション参加は当協会にとって初の試みであり、参加にあたり群馬県観光コンベンションビューロー及び（一社）高崎市観光協会に相談、協力を得た。当日運営は（一社）高崎市観光協会が主導し、当協会は限られた人員でありながら、無事にイベントを終えることができた。「道の駅しもにた」との連携体制により、出店準備、商品手配を円滑に行うことができ、またクレジットカード決済には対応していないものの電子決済にも対応できた。学会会場という販売しづらい条件であり、今後は販売の仕組みづくりも必要ではあるが、下仁田ねぎが完売するなど成果を上げることができた。 **・メディア対応、フィルムコミッション業務** 令和６年 10 月に下仁田フィルムコミッションを設立。撮影対応のワンストップ窓口として取り組みを始めた。 令和６年度は、映画撮影、ぐんまフィルムコミッション主催「ぐんま次世代映像クリエイターコンペ」エントリー作品撮影、地元特産物取材等を受け入れた。テレビ撮影の対応ではコンテンツや構成の提案など、制作者と協働で番組づくりに取り組み、マスメディアによる観光プロモーションを図っている。 また、観光案内所にてテレビ番組等の映像を放映。映像が流れていると足を止める来訪者も多く、旅ナカ情報の提供にも活用している。
	受入環境の整備	・令和５年度（令和４年度第２次補正　インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業） **観光農園「モジョファーム」整備事業** 「道の駅しもにた」に隣接する農地を観光農園として整備した。以前より実施していた「下仁田ねぎ収穫体験」をより手軽で安全に実施できるようになったほか、その他の野菜の収穫体験も可能となった。また、収穫体験に使用しなかった下仁田ねぎ、野菜は「道の駅しもにた」にて販売。持続可能な施設運営を図っている。

		・令和６年度10月　下仁田フィルムコミッション設立 下仁田町商工観光課と協議、理事会の承認を受け「下仁田フィルムコミッション」を設立、事業開始。撮影対応のワンストップ窓口として整備し、下仁田町と連携してフィルムコミッション業務に取り組んでいる。また下仁田フィルムコミッション専用WEBサイトを開設した。ロケ地・撮影支援の情報等を順次発信し、プロモーションを図っていく。 連携団体：ぐんまフィルムコミッション、あんなかロケーションサービス、富岡フィルムコミッション、藤岡フィルムコミッション **・インバウンドツアー対応** ・令和６年５月　こんにゃくに強い関心のあるアメリカテキサス州在住の方が来訪。ツアー企画、ガイド対応。 国内旅行中の依頼であり、限られたスケジュールであったが、満足度の高いツアーを提供することができた。 ・令和６年１１月　下仁田町商工観光課の紹介で軽井沢のインターナショナルスクール「UWC ISAK JAPAN」の校外学習受け入れ。生徒82名、教員14名の総勢96名参加。 教員が事前に現場視察に訪れ、何度も打ち合わせを重ねた。またスタッフ間でオペレーションを共有するなど、十分な事前準備を行なったことが奏功し、計画通りにツアーを実施することができた。 ・ブランド食材「下仁田ねぎ」「こんにゃく」の収穫・手作り体験コンテンツをはじめ、下仁田の観光魅力資源が外国人観光客からも高評価を得られることが明らかとなった。 ・今回はどちらのツアーも日本語を話せる参加者がいたため言語対応の問題はなかったが、言語対応の拡充について検討を進める必要がある。 ・また食事の受け入れ環境として、食のタブー、アレルギー、大人数の受け入れが可能な施設などの整備が課題。 ・世界遺産「荒船風穴」及び神津牧場にて、100人規模の団体利用者の移動手段に課題がある。 **・令和６年度関東運輸局連携企画検討事業** 〈令和６年度参加会議・視察等〉 9月 関東運輸局主催　関東広域エリアDMOフォーラム 2024 in 草津 1月 関東運輸局主催　「分散型宿泊事業」先進地視察（山梨県小菅村） 1月～3月 高崎経済大学大学院スペシャルセミナー「観光創造プログラム」 宿泊施設、観光2次交通といった受け入れ環境整備の検討に係る情報収集を開始。 会議や視察等に参加する中で、下仁田町のポテンシャルや現状の立ち位置を再確認した。また、関連事業者・団体との繋がりを得られた。

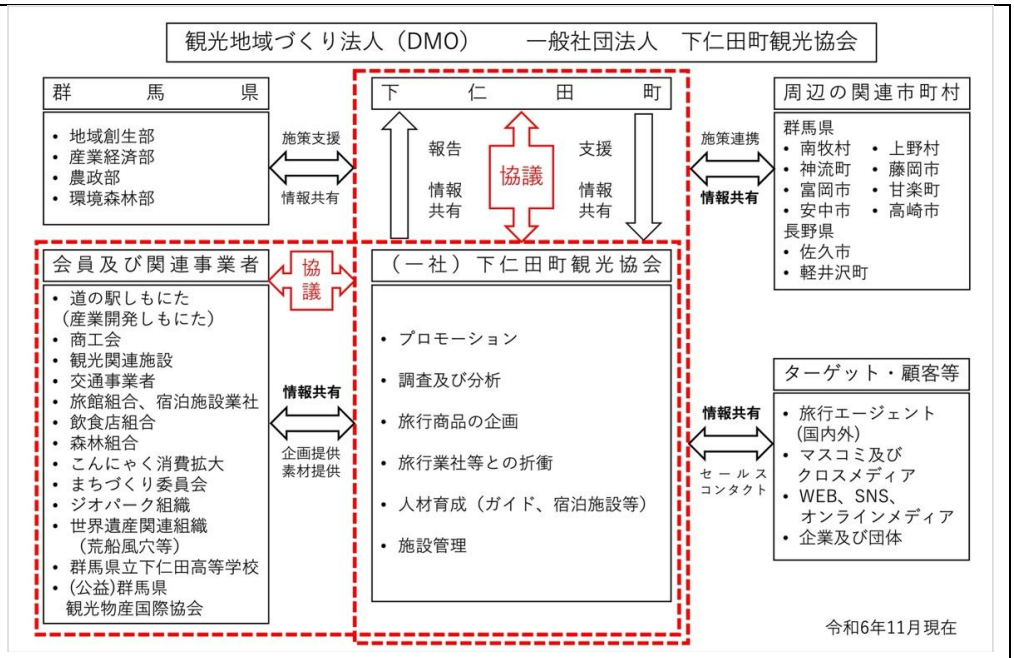
		大掛かりなインフラ整備には取り組めないが、取り組める範囲から着手していく。 **・群馬県主催研修会等への参加** 12 月 群馬県産業経済部戦略セールス局観光魅力創出課主催令和 6 年第 1 回ユニバーサルツーリズムセミナー 1 月 群馬県甘楽富岡振興局富岡森林事務所主催 森林空間利用（E-MTB 試乗体験会） 2 月 群馬県農政部主催令和 6 年度グリーン・ツーリズム研修会 3 月 群馬県産業経済部戦略セールス局観光魅力創出課主催令和 6 年第 2 回ユニバーサルツーリズムセミナー 群馬県が主催する会議・研修会等にも積極的に参加。受け入れ環境整備に係る情報収集に努めている。電動マウンテンバイク試乗会では、少ない力で斜面や長距離を走行できることを体感。観光 2 次交通としての活用を検討する契機となった。 **・案内看板整備の検討（DMO 事業推進検討会議）** 下仁田町来訪者動向調査にて、令和５年度より依然として「観光スポットへの案内看板が欲しい」という要望が多くある。下仁田町商工観光課長も参加する DMO 事業推進検討会議内で共有・協議しており、案内看板の拡充に向けた検討を進めている。
	観光資源の磨き上げ	**・こんにゃく手作り体験** ・令和７年 6 月 12 日　「下仁田町こんにゃく食べよう健康増進条例」制定 こんにゃく作りを楽しみながら、こんにゃくの町「下仁田」の歴史や、こんにゃくについて（こんにゃく芋の栽培、原料及び製品加工、調理法など）学べる体験コンテンツ。DMO 法人の登録を受ける以前より継続して取り組んでいる事業。 所要時間は約 1 時間で、気軽に参加できる人気コンテンツ。少人数～団体まで広く受け入れ、体験を通じてこんにゃくの消費拡大に繋げ、啓蒙活動を行なっている。こんにゃく作りはほとんどの人にとって初めての体験。特別な体験と、出来上がった美味しいこんにゃくで高い評価を得ている。 令和 6 年 1 月には下仁田町商工会主催「第 2 回しもにた青空市」に下仁田町商工会と共同出店。下仁田町や周辺地域からの来訪者に無料でこんにゃく手作り体験を提供し、地元の特産物「こんにゃく」の魅力を伝えることができた。今後も体験のさらなる品質向上に努め、高付加価値な体験コンテンツとして磨き上げていく。令和 7 年度は条例の制定もあり、こんにゃくのさらなる啓蒙・消費拡大に努めていく。 **・令和４年度第２次補正　インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業**

		モジョタウン下仁田伝統野菜「下仁田ねぎ」の核心にせまる“すき焼き体験/日本文化”探究の旅 下仁田のポテンシャルを全集中、こだわり抜いた日本食文化の学びと体験型コンテンツ、「究極の SUKIYAKI」体験を造成することで、「地域プライド」を取り戻すチャンスに繋げられるよう事業に着手し、本年度取り組みを行なった。成果としては下仁田に高付加価値な観光資源があることを再認識できたこと、来訪者へのアンケート調査から観光資源のどのような点が魅力的にうつるのかを把握でき、来訪者の目線を取り入れながらその見せ方・遊び方をブラッシュアップすることができた。また、試食検討およびモニターツアーに地域住民も参加。マイナスな意見も含めた地域住民からのフィードバックを得られ、それをもとに磨き上げを行った。本事業に取り組んだことで全国キー局を含む多くのメディアに取り上げられることになり、大きな宣伝効果を上げることができた。思いのほか地域住民に反響があり、DMO の取り組みを周知するきっかけになった。地域の変化としては、高付加価値な観光コンテンツを作り出す土壌を作れたことが大きな成果である。実施にあたり連携した事業者の中には初めは消極的な事業者もいたが、ツアーを繰り返すことで経済効果が生まれ、最終的には積極的な参画に繋がった。 【主な体験内容】 伝統野菜「下仁田ねぎ」と地場産業を支え続ける「原木しいたけ」の歴史や生産体制を学ぶ収穫体験 群馬県認定こんにゃくの達人による究極のこんにゃく手作り体験 下仁田産すき焼き食材にこだわり、日本食料理人と共同開発・モジョタウン下仁田すき焼きレシピ「究極の SHIMONITA すき焼き」 本事業を活用した持続可能な高付加価値土産物企画開発 高付加価値「究極のすき焼きまん」を企画開発し、「道の駅しもにた」にて限定販売、又ふるさと納税商品として事業収益に繋げていく。 **・モジョタウン下仁田モータースポーツヒストリーアーカイブ事業** 令和５年度「頭文字 D に係る企画調査会議」を合計 4 回開催。モータースポーツ関連企業との意見交換の結果、下仁田町には 1970～1980 年代にかけてモータースポーツで活躍した人が多く存在し、関連エピソードが豊富であることが明らかとなった。 【企画調査結果】 ・下仁田町は 1970 年代よりモータースポーツに精通する人材の宝庫 ・ヒストリカルブランディングの可能性 ・他の地域に模倣されない独自のコンテンツとなり得る 【会議の参加主体】 ・下仁田町商工観光課、企画課 ・町内在住モータースポーツ有識者	

		・近隣地域モータースポーツ有識者 ・株式会社 JTB 群馬支店 【クルマ文化の調査・アーカイブ】 令和６年度よりモータースポーツで活躍した人々の歴史・文化をアーカイブする事業を開始。モータースポーツの聖地として稼げる地域づくりを目指し、下仁田のモータースポーツ文化のアーカイブに取り組んでいる。町内モータースポーツ有識者、当協会代表理事、事務局が参加する打ち合わせ会議にて方針を検討しながら事業を進めている。 モータースポーツ関連企業と対話する中で、モータースポーツ関連メディア等の新たな繋がりも生まれ、メディアプロモーションにも繋がっている。 モータースポーツで活躍した人々へのインタビュー調査を実施。下仁田町のモータースポーツの歴史を人にフォーカスして調査を実施した。 【会議の参加主体・インタビュー調査対象】 ・町内在住モータースポーツ有識者 ・近隣地域モータースポーツ有識者 ・モータースポーツ関連企業（メディア、パーツメーカーなど） 令和７年 6 月に(一社)日本自動車会議所の会長に就任した豊田章男（トヨタ自動車㈱代表取締役）氏がクルマ文化の振興を宣言。文化としてのクルマに注目が集まりつつある。この時流を機会と捉え、当協会はクルマ文化を活用した観光コンテンツ造成に取り組んでいく。 **・WEB アクセス解析を利用した卒業論文研究調査への協力と事業への活用** 令和５年度に、高崎経済大学地域政策学部観光政策学科 4 年生竹内氏の WEB アクセス解析を利用した卒業論文研究調査に協力、研究実績に寄与した。調査には下仁田町観光協会の WEB サイトを使用し、分析結果およびアクセス解析方法のフィードバックを得た。これらを活用し当協会 WEB サイト運営に取り組んでいる。 【研究の実績】 ・高崎経済大学地域政策学会令和 5 年度学生懸賞論文最優秀論文賞受賞 ・日本観光研究学会機関誌【観光研究】Vol.36 No1 に高崎経済大学井手拓郎准教授と共著で、研究ノート掲載 「観光情報サイト閲覧行動の研究ーポスター広告接触と属性に着目してー」 **・下仁田フィルムコミッション事業** ドラマ・映画・特産物の取材に関する問い合わせが増加しており、撮影対応のワンストップ窓口の必要性が高まっていた。下仁田町商工観光課と協議の上、当協会理事会で承認、令和６年度 10 月より「下仁田フィルムコミッション」を設立、事業を開始した。

		・森林空間を活用した観光コンテンツ造成 下仁田町は木材産業に支えられてきた町であり、活用可能な林道・作業道が豊富に存在 群馬県富岡森林事務所及び群馬県環境森林部森林局林政課より森林空間活用の提案あり 連携を図りながら観光コンテンツ造成の検討を進めている 令和７年１月 24 日 群馬県甘楽富岡振興局富岡森林事務所主催 森林空間利用（E-MTB 試乗体験会） 森林空間利用における電動マウンテンバイクの可能性を見出すことができた。下仁田町の自然・歴史観光地の中には公共交通機関でのアクセスが乏しいスポットも多く、またその先には豊富な森林空間が広がっていることから、電動マウンテンバイクツアーコンテンツの企画検討を開始。森林空間を楽しむウェルネス体験を提供すると同時に、観光２次交通の新たな選択肢を見出すことを目指している。 令和７年度は観光庁「地域観光魅力向上事業」に応募し、事業実現に向けて取り組んでいる。
	【定量的な評価】 令和６年度こんにゃく手作り体験受け入れ実績 事業収入:1,099,320 円（前年度比 39%増） 団体：21 団体 759 名（前年度比 31%増） 個人：54 組 159 名（前年度比 87%増） 団体・個人共に前年度より大きく集客を増やし、コロナ禍以前の４割弱まで集客を回復している。 今年度は個人の受け入れが大幅に増加。イベントに出店したこともあり、大きく参加者数を伸ばした。	
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 観光地域づくり法人である一般社団法人下仁田町観光協会が母体となり、飲食店組合、旅館業組合、交通事業者、商工会、農業生産者、林業関係者、金融機関、ジオパーク協議会、行政、その他町内の企業など、多様な関係者が参画するとともに、官民が密接な連携を図りながら運営している。 **【実施体制図】**	

様式１



２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

長野県の佐久市及び軽井沢町、富岡市、安中市、南牧村、上野村、神流町などの観光関連の団体と引き続き、相互に連携を図り観光振興を推進する。また下仁田町は国内有数の観光地である軽井沢町と秩父地方を結ぶ中継地点に位置している。このため、両地域と沿道の神流町・上野村・南牧村などを包含するラインで連携を図ることで、自然・健康・歴史・文化などを学び体験できる様々な形態のツーリズムの企画と提供が可能になり、観光客と滞在時間の増大にも繋がることから、関連地域における観光や文化の振興に大きく寄与するものと考えている。

また、首都圏・都内の人々をターゲットに、マーケットへの訴求力の拡大や顧客視点からのニーズの高い旅行商品の企画開発に取り組むとともに、これから益々増大するであろう地方への移住定住施策を積極的に支援し、本町を移住定住に選定してもらえるように取り組む。

【観光客の実態等】

下仁田町を訪れる来訪者の多くは県内及び首都圏からの来訪者。
情報収集は道の駅スタンプブック、インターネット検索、Google マップ等が多い。
当協会が実施する令和６年度下仁田町来訪者動向調査によるとリピーターの割合が 71.8%と非常に多く、再訪意向も 80.8%と極めて高い結果となっている。
来訪者は豊かな自然やのどかな風景、特産物等を高く評価しており、特に「下仁田ねぎ」「こんにゃく」といった特産品への期待が高い。その他、自然景観や歴史文化、登山やこんにゃく手作り体験などの体験コンテンツ、神津牧場のソフトクリーム、すき焼き、カツ丼などの食を目的とした来訪も多い。
公共交通機関が不足している背景もあり、来訪者の交通手段はほとんどが自家用車である。
「道の駅しもにた」は上信越自動車道下仁田 IC から近く、近隣の南牧村、上野村、神流町、富岡市、安中市、長野県佐久市、軽井沢町などの中継地点として立ち寄る来訪者も多い。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

〇観光施設

・道の駅しもにた（防災・重点道の駅）
・群馬県立森林公園さくらの里
・あぶだ福寿草の里
・下仁田あじさい園
・ほたる山公園
・山際公園
・青岩公園
・本宿（宿場町）エリア

〇自然・スポーツ系資源

・妙義山「石門めぐり」
・神津牧場
・荒船湖・サンスポーツランド
・姫街道もみじライン
・下仁田ねぎ畑
・登山及びハイキング(荒船山・妙義山・物語山・小沢岳・稲含山・四ツ又山・鹿岳・物見山など)
・蒔田不動の滝
・はねこし峡
・不通渓谷
・下仁田カントリークラブ
・県道、町道、林道の網羅（カーマニア、モータースポーツ愛好家）

〇文化系資源(体験含む)

・荒船風穴(世界文化遺産)
・下仁田ジオパークジオサイト
・下仁田町自然史館
・下仁田町歴史館
・中之嶽神社（妙義山）
・諏訪神社
・中小坂鉄山製鉄所跡
・下仁田戦争跡
・上信電鉄

・下仁田駅駅舎
・赤レンガ倉庫
・こんにゃく手作り体験
・下仁田ねぎ収穫体験
・上州下仁田焼き陶芸体験

〇イベント等の資源
・蒟蒻大黒天祭
・あぶだ福寿草祭り
・山際稲荷神社例大祭
・観光ＰＲイベント（さくらの里）
・神津牧場花祭り
・神津荒船もみじ祭り
・下仁田あじさい祭り
・下仁田こんにゃく夏祭り
・諏訪神社秋季例大祭
・カツ丼スタンプラリー
・下仁田ねぎ祭り

〇食・特産品資源
・特産品「下仁田こんにゃく」
・特産品「下仁田ねぎ」
・特産品「しいたけ」
・神津牧場特産品（牛乳、バター、チーズ、ソフトクリーム、食肉、加工食品）
・下仁田森林組合「木工製品」
・上州下仁田焼
・下仁田かつ丼

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

※　施設①～③は、赤破線内の範囲

施　設　名	収容力	施　設　規　模	アクセス（徒歩）

① 清流荘	30 名	13 室、温泉、露天風呂、宴会場	下仁田駅 20 分
② 常盤館	30 名	6 部屋　割烹料理、宴会場	下仁田駅　3 分
③ 下仁田館	40 名	8 部屋、宴会場、会議場等	下仁田駅　5 分
④ 神津牧場ロッジ	36 名	6 部屋、売店、バーベキュー、体験	下仁田駅 50 分（車）
⑤ 荒船いとわ	14 名	1 棟貸、リトリート体験	下仁田駅 30 分（車）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

〇公共交通機関利用

首都圏からの公共アクセスは、ＪＲ高崎駅から上信電鉄に乗りかえ約 60 分、(計 120 分程度)
高速バスを利用の場合は、池袋・新宿から約 120 分、練馬・川越から約 90 分

〇マイカー利用

関越道、練馬ＩＣから藤岡 JCT より上信越道に入り下仁田ＩＣまでは約 90 分

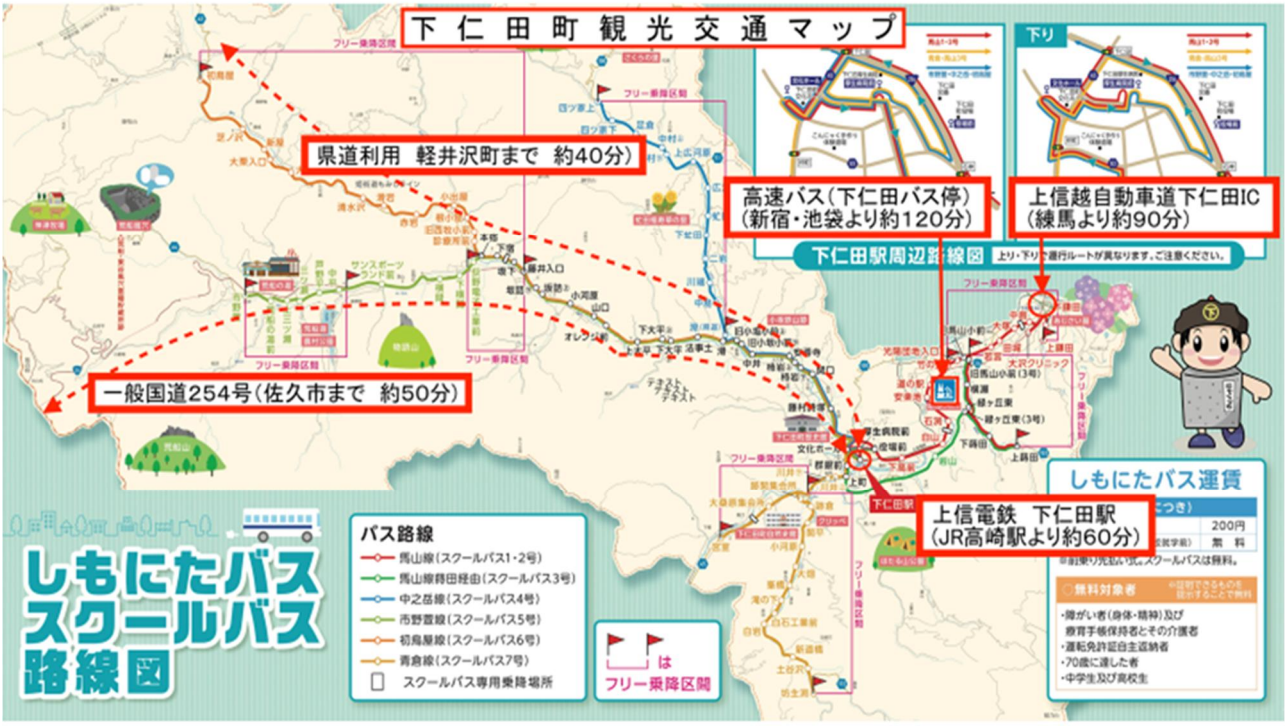
〇町内の移動

下仁田町の町営バスが全５路線
観光地までの送迎を担うタクシー会社２社

〇周辺市町村へのアクセス

上野村乗合タクシーが下仁田高速バス停、下仁田駅に停車
一般道を利用して軽井沢まで約 40 分(高速道路を利用した場合は 30 分)
国道 254 号線を利用して長野県佐久市まで約 50 分

交通機関名称	内容
上信電鉄	JR 高崎駅より約 60 分
高速バス	新宿、池袋、練馬、川越より約 120 分
下仁田町内路線バス	全５ルート(中之嶽線、馬山線、初鳥屋線、市野萱線、青倉線)
タクシー	下仁田駅に２社、町内観光ポイントまでの送迎
上野村乗合タクシー	上野村まで約 50 分、温泉施設や観光地に接続



【外国人観光客への対応】

〇下仁田町観光案内所

・外国人観光案内所カテゴリー２（令和６年度更新）
・施設の予約サービス（周辺地域を含む）

〇観光地等の対応

・世界遺産に登録されている荒船風穴では多言語対応のパンフレット作成とＰＲ

〇ツアー・体験メニュー

・こんにゃく手作り体験（英語対応可能な職員が在籍）
・下仁田ねぎ収穫体験
・ろくろと手びねり陶芸体験
・各種ツアー（事前に申し出があれば、英語対応が可能）

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	道の駅しもにた、高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」（アンケート調査）と連携して事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	下仁田町旅館組合員にアンケート調査を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」と連携して事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」と連携して事業として実施。

ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	WEB サイトの分析。 「Google Analytics 4」を活用し、潜在的なニーズを汲み取る。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	下仁田町役場担当者と協議連携し、データ収集に努める。
町内観光関連施設データ	下仁田町の観光産業の特徴やニーズを把握し、総合的な戦略立案に活用するため。	○主な調査対象○ 道の駅しもにた、公共交通機関及びタクシー等、下仁田町自然史館、下仁田町歴史館、登山／ハイキング（荒船山・妙義山などの山々）、県立妙義公園（さくらの里等）、神津牧場、青岩公園、諏訪神社、中之嶽神社、下仁田ジオパーク、中小坂鉄山製鉄所跡、下仁田戦争跡、下仁田あじさい園、あぶだ福寿草の里、下仁田ゴルフ場、本宿エリア、荒船湖、こんにゃく手作り体験、下仁田ねぎ収穫体験、下仁田焼き陶芸体験など。 過去の調査成果などがあればそれらも活用する。
食・特産品資源調査 及び特産品試食調査	・食（こんにゃく・ねぎ・しいたけ・神津牧場乳製品・食肉加工製品・下仁田カツ丼）、特産品（下仁田焼き・木工製品等）などの資源についての評価、改善すべき事項等について調査分析を行い、事業者と連携し、発展に繋げる。 ・お土産品などの評価やニーズなどを把握し、更なる改善や新たな商品開発に繋げる。	アンケート調査を高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」と連携して事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

本町においても人口減少が進んでおり、それにともなう過疎化の進行と共に、中心市街地や本宿地域の商店街の衰退も目立っている。全国的な物価上昇の影響もあり、町内事業者もより一層と経営が厳しくなっている。人口減少を緩和していくためには、下仁田町の魅力を発信し、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大を図る必要がある。
今後は、コロナウィルスが与えた経済社会への影響、消費者のマインドの変化などを的確に把握し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）が中心となり、商工会・交通事業者・森林組合などの関係団体と協働しながら、豊かで恵まれた自然環境と特色ある地域資源（世界遺産・産業遺産・ジオパークなど）を活かし、住民の暮らしを豊かにする地域づくりを戦略的に進める。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響

様式１

内部環境	強み（Strengths） ・世界遺産「荒船風穴」に登録 ・知名度の高いこんにゃくブランド ・知名度の高い下仁田ねぎブランド ・日本ジオパークに認定 ・近代産業「中小坂鉄山」、「白石工業・白艶華工場」 ・通年登山が可能な山が多い ・豊富な森林空間（林道・作業道） ・歴史上の著名人が訪れている （島崎藤村、伊能忠敬、ウェストン、小栗忠順等） ・車文化 ・「頭文字 D」妙義ステージの舞台 ・地域の文化、住民参加の伝統行事が伝承されている ・地震等の自然災害に強い りイベント開催が可能である ・駅周辺に赤レンガ倉庫の景観がある ・道の駅に一定数の訪問者が訪れている ・東西に広がる標高差のある町 ・関東平野の最終地点 ・首都圏から 2 時間程度の距離にあり、日帰り旅行に適している ・雪害が少ない平野部では積雪等がほとんどないため、１年中ハイキング等ができる	弱み（Weaknesses） ・宿泊施設の収容人数が少ない ・来訪者に対して、町内に大規模人数収容可能な飲食施設、イベント施設やコンサート会場がない。 ・目的地までの２次交通アクセスが不便 ・地域内の観光産業への関心が低い ・団体ツアー等の受け入れ体制が確立されていない ・国道 254 号は大型車混入率が約６０％と高く、中心部の安全安心な沿道環境を損ねている ・国道 254 号の道路整備が必要である ・インバウンド対応のガイドが整備／用意されていない ・来訪者向けの案内看板が少ない ・人口減少により地域産業全体が衰退傾向にある ・商店街等の街全体に活気がない
外部環境	機会（Opportunity） ・隣接する富岡市の世界遺産富岡製糸場と群馬県世界遺産センター、３大パーク（群馬サファリパーク、こんにゃくパーク、めんたいパーク）には多くのには観光客が訪れている ・軽井沢まで 30 分圏内にあり、インバウンド需要が見込める ・(一社)日本自動車会議所新会長の豊田章男氏が「クルマ文化」の振興を宣言。クルマ文化に注目が集まり始めている。	脅威（Threat） ・ジャパンレイルパス(上信電鉄)のエリアではないためインバウンド誘致に不利である ・高速バスの本数が少ない。(日中の時間帯) ・３大パーク（群馬サファリパーク、こんにゃくパーク、めんたいパーク）には多くのには観光客が訪れている

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層 ・首都圏の小中高学校及び教育団体 ・首都圏の企業 ・首都圏から近隣市町村を含めた観光目的の人々
○選定の理由 首都圏の小中高学校に人気のある、通年催行可能な「こんにゃく手作り体験」のコンテンツを保持している。 首都圏からのアクセスの良さ（下仁田ＩＣ）もあり、日帰り観光コンテンツとして「こんにゃく手作り体験」「下仁田ねぎ収穫体験」のニーズがある。

また、首都圏からアクセスの良い森林空間は貴重であり、首都圏をターゲットとしたリトリートの地としてのポテンシャルがある。
〇取組方針
こんにゃく手作り体験ログ、下仁田ねぎ収穫体験ログにて体験の魅力、情報発信を行っている。
令和５年度より、防災・重点「道の駅しもにた」隣接地に下仁田町観光協会観光農園造成整備。
森林空間を利活用した観光コンテンツの造成、販売。

〇ターゲット層
・20 代～60 代の「頭文字 D」のファン
・カーマニア、モータースポーツ愛好家
・モータースポーツ関連企業

〇選定の理由
人気漫画「頭文字 D」の舞台となった妙義山を保有
モータースポーツの歴史・文化が豊富に残っており、他の地域にない下仁田独自の魅力である
モータースポーツ文化を支えた、ラリーコースに適した道路が点在
(一社)日本自動車会議所会長の豊田章男氏がクルマ文化の振興を宣言。クルマ文化に注目が集まりつつある。
積雪が少なく、通年で利用できる道路環境
首都圏からのアクセスが良好
〇取組方針
ヒストリカルブランディングによる観光誘客及び知名度向上
モータースポーツを軸とした観光コンテンツ、高付加価値な土産物の造成販売
モータースポーツ関連企業の受け入れ環境整備及び商品化

〇ターゲット層
・インバウンドを含む広域旅行客

〇選定の理由
下仁田町は首都圏からのアクセスが良好である。
・上信越自動車道下仁田 IC（関越自動車道練馬 IC から約 120 分）
・高速バス（新宿・池袋―道の駅しもにた）
・ローカル鉄道の上信電鉄（JR 高崎駅―下仁田駅）
一方で、観光２次交通が不足。上信電鉄下仁田駅および「道の駅しもにた」から町営バスやタクシーが接続しているが、運行範囲や運行本数が限られており、便利とは言い難い。
特に世界遺産「荒船風穴」、妙義山といった観光スポットへは公共交通でのアクセスは困難。
今後の高齢社会化、若者の自動車離れを考慮すると、地域住民の移動手段としても公共交通の維持・拡充は重要である。
公共交通機関で下仁田を訪れる広域来訪者をターゲットに設定することで、公共交通機関の観光利用を促進。また観光２次交通の拡充を検討し、地域交通の維持とさらなる充実を図る。
また遠方からの誘客を図ることで、長期滞在や再来訪を促し、観光消費額の増加が期待できる。
〇取組方針
旅行会社へのプラン提供をはじめ、公共交通機関を活用した新たな観光スタイルを提案。
観光２次交通を充実させ、自家用車に依存しない観光スタイルを確立するため、ライドシェアや電動マウンテンバイクツアーといった新たな交通手段の検討を進める。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	モジョタウン下仁田 「モジョ（Mojo）とは、アメリカのスラングで、「くだけて」「物事がうまくいく」「特別な力（能力）」「運」「お守り」といったように、幸運や不思議な力を意味する言葉である。日本ではあまり聞き馴れないが、欧米圏では馴染みのある言葉で、他の自治体にはない魅力的な観光資源で溢れる下仁田を表現している。 観光＝「非日常」を超える、モジョな「観光魅力資源」が詰まった町を「モジョタウン下仁田」と名付け、地域ブランディングを図る。
②コンセプトの考え方	８つのモジョな観光魅力資源の磨き上げと活用 モジョ１「中央構造線」と「関東平野」が出会う神秘な場所 モジョ２鉱物資源が豊かな大地の恵みジオパーク下仁田 （中小坂鉄山、白石工業白艶華工場） モジョ３世界遺産群のシルク文化の盛り上げ役（荒船風穴、神津牧場等） モジョ４ブランド食材が堪能できる食の町（下仁田ねぎ、こんにゃく等） モジョ５スギは下仁田町の町の木　木材資源・文化の町 モジョ６歴史ある始発駅「上信電鉄下仁田駅」、上信越道「下仁田インターチェンジ」、防災・重点「道の駅しもにた」 モジョ７群馬の観光名所・「妙義山」と日本一大きな大国様「中之嶽神社」 モジョ８「頭文字 D」の舞台となった「妙義山」と地域の車文化と車愛 ５つの取り組み カテゴリー 食：下仁田の特産物とオリジナル企画「究極の SUKIYAKI」を造成、日本一の“下仁田ねぎ”や“蒟蒻”の聖地として認知してもらう。 体：こんにゃく手作り体験や下仁田ねぎ収穫体験、自然を活用した体験等で日本文化に触れてもらい、下仁田の良さをより深く理解してもらう。 歌：下仁田の特色を歌詞に盛り込んだオリジナルソングでイベント等を開催し、下仁田を身近に感じてもらう。 催：バラエティーに富んだイベント開催し、下仁田を存分に楽しんでもらう。 発：SNS を活用しモジョタウン下仁田の様子をリアルタイムで国内外へ情報発信、訪れてみたい町下仁田への集客に繋げる。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	下仁田町観光協会 DMO 事業推進検討会議
	高崎経済大学地域政策学部観光政策学科 准教授 井手拓郎氏を座長に招聘し「DMO 事業推進検討会議」を年数回開催。継続して行なっている。 下仁田町役場商工観光課長（担当課）に検討委員として参画していただき、共に DMO 事業について意見交換及び事業検討を行い、共通認識の元事業を進めている。 令和４年度の会議では、KPI 指標調査について企画検討を行なった。

	令和５年度より、高崎経済大学「井手拓郎ゼミナール」と連携し、下仁田町来訪者動向調査を開始。KPI 指標に必要なデータ収集、データ分析を行なっている。また、群馬県や連携団体等から提供いただいた調査データを会議にて検討し、当協会のマーケティングに有効活用している。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光関連サービスに対して、旅行会社や利用者などに広くアンケート調査を実施し、客観的データの取得と分析に努める。分析結果等を観光事業者や関係者にフィードバックする。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	情報のワンストップ窓口としての機能を高め、エージェントをはじめ個人観光客等に対する利便性を高める。 また、SNS 等を通じて情報を発信すると共に、多言語化拡散型のプロモーションを推進する。 令和６年度より「下仁田フィルムコミッション」事業を開始。撮影支援のワンストップ窓口整備によって、円滑な撮影対応を促進。マスメディアへの露出を増やし、広域プロモーションに繋げる。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	268	270	285	285	290	295
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	269	283	262			
		(-)	(100)	(-)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	3,860	3,970	2,900	2,900	3,000	3,000
		(-)	(100)	(30)	(30)	(30)	(30)
	実績	3,433	2,816	3,408			
		(-)	(20)	(67)			
●来訪者満足度（%）	目標	55	68	55	70	70	70
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	77.1	51.7	60.3			
		(-)	(-)	(-)			
●リピーター率（%）	目標	50	75	70	70	70	70
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	67.3	69.5	71.8			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

様式１

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

それぞれの項目の目標値の設定経緯については、これまでのデータに加え観光地域づくり法人としての役割を発揮しての成長率を見込んでいる。DMO 事業推進検討会議を発足し、DMO の果たすべき役割、必須 KPI 指標について協議し、共有している。設定後の分析や評価の基礎となるデータ収集の方法等も随時改善し進めていく。また、令和３年度に見直しを行った組織体制を継続、より効率的で効果的なマネジメントに努める。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

上信越自動車道、下仁田ＩＣから約５分に位置する「道の駅しもにたは」、平成 27 年度に重点道の駅(国土交通省)に選定されている。「道の駅しもにた」内にある観光案内所(DMO 事務局)を観光の玄関口(軸)として、ここへの来訪者の滞留時間を増やすと共に、周辺観光地へ適切に誘導することで町全体の観光消費額の増加を見込んでいる。そのため、「道の駅しもにた」の売上高を旅行消費額に設定しています。

●延べ宿泊者数

町内宿泊施設の宿泊者数（町の実績値）や各宿泊施設の収容人数をベースにしています。

●来訪者満足度

令和５年度より下仁田町来訪者動向調査を開始、その結果に基づいて算出。また、群馬県、連携団体等から提供いただいた調査データを当協会のマーケティングに有効活用している。

合わせて、WEB サイトによる分析、アンケートも考慮し、定期的に把握できる明確な仕組み作りに取り組みます。関係者間での情報共有し、課題抽出と課題解決に取り組みます。

●リピーター率

令和５年度より下仁田町来訪者動向調査を開始、その結果に基づいて算出。また、群馬県、連携団体等から提供いただいた調査データを当協会のマーケティングに有効活用している。

合わせて、WEB サイトによる分析、アンケートも考慮し、定期的に把握できる明確な仕組み作りに取り組む。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
● WEB サイトアクセス数（回）	目標	193,000	300,000	200,000	300,000	300,000	300,000
		(-)	(-)	(4,500)	(2,800)	(2,800)	(2,800)
	実績	296,610	135,463	149,361			
		(-)	(4,034)	(2,789)			
●メディアへの掲載回数（件）	目標	30					
		(-)					
	実績	30					
		(-)					
● Instagram フォロワー数（人）	目標	-	650	850	1,200	1,300	1,400
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	500	797	1,022			
		(-)	(-)	(-)			
● X フォロワー数（人）	目標	-	50	70	150	160	170
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		10	58	126			

様式１

	実績	(-)	(-)	(-)			
● 観光案内所来訪者数（人）	目標	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000
		(-)	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)
	実績	20,173	23,817	20,253			
		(11)	(38)	(29)			
●移住定住に関する相談件数（件）	目標	200	200	200	200	200	200
		(2)	(-)	(2)	(2)	(2)	(2)
	実績	188	311	204			
		(-)	(3)	(3)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

本町の観光拠点である、道の駅しもにたを軸として、それぞれの観光スポットへの誘客、今後の商品造成とそのブランド力の向上などを目的として指標の設定を行なっている。また、近隣の自治体及び関係団体などとの企画連携及び協働を推進することにより、相互の成長を見込んでいる。

【設定にあたっての考え方】

●WEB サイトアクセス数

これまでの観光企画のみのサイトから周辺エリアを含む総合的な地域のプロモーションサイトへのシフトを目指すとともに、関連サイトとのリンクを推進してきた。地域のプロモーションサイトとしてどの程度利用されているかを可視化するため WEB サイトへのアクセス数を指標に設定した。
※WEB サイトのアクセス数については、令和５年度より集計方法を変更したため、以前の集計値と比較することは困難である。以後は令和５年度の集計値を元に再度目標設定をおこなう。

●メディアへの掲載回数

地域全体で観光振興及び地域ブランド力の向上を図ることを目的にするとともに、地域の方々に観光振興や地域づくりの活動に対する理解を深めてもらうための域内プロモーションに位置づけてメディア掲載回数を指標に設定していた。令和４年度で計測終了とした。

●Instagram、X フォロワー数

当協会公式 Instagram、X にて、下仁田町の観光情報や、体験コンテンツの様子、花の開花状況、観光農園の状況等を日々発信している。リアルタイムに情報発信、フォロワーには継続的に訴求ができる特性があり、フォロワー獲得はプロモーションに重要な役割を占めていると考えて設定している。

●観光案内所への来訪者数

下仁田町の玄関口である観光案内所の来訪者数は、主要拠点で町全体の観光入込客数の約７割を占める「防災・重点道の駅しもにた」の来場者数と密接に関連している。来訪者数を把握することで、観光客の動向や要望なども得ることが可能であり、観光戦略立案の基礎資料にするために来訪者数を指標に設定している。

●移住定住に関する相談件数

観光案内所は、移住定住くらしの相談窓口が設置されており、移住定住コーディネーターが常駐し町外からの移住定住を望む人たちへの様々な相談を行っている。現状の課題や把握、定量的評価を可能にし、より効率的で効果的な施策を展開するため、相談件数を指標に設定している。目標値については例年の相談件数が高水準で安定していることから、前年度と同値に設定している。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	17,831,646（円）	下仁田町補助金 8,500,000 円 下仁田町移住定住コーディネーター受託 2,900,000 円 群馬県立妙義公園施設管理受託 2,887,000 円 下仁田町観光協会会費収入 624,000 円 防災交流ステーション貸館及び清掃業務委託 313,563 円 事業収入観光収益 743,298 円 事業収入こんにゃく手作り体験 380,800 円 事業収入移住定住 7,150 円 事業収入ねぎ収穫体験 382,260 円 事業復活支援金 1,000,000 円 その他雑収入 93,575 円
2023（Ｒ５） 年度	28,834,185（円）	下仁田町補助金 10,000,000 円 下仁田町観光協会会費収入 626,000 円 事業収入 4,637,300 円 移住定住コーディネーター委託事業 こんにゃく手作り体験料 下仁田ねぎ収穫体験料 物販販売 委託金 3,301,438 円 県立妙義公園施設等管理業務 防災交流ステーション管理委託 雑収入 7,201 円 観光庁補助事業補助金 5,668,358 円 繰越金 4,593,888 円
2024（Ｒ６） 年度	22,719,556（円）	下仁田町補助金 12,000,000 円 下仁田町観光協会会費収入 674,000 円 事業収入 5,546,398 円 下仁田町暮らしの相談窓口業務 こんにゃく手作り体験 下仁田ねぎ収穫体験 物販販売事業収入 受託事業収入 3,949,938 円 県立妙義公園地域密着型公園管理業務 下仁田町交流防災ステーション貸館及び清掃業務 雑収入 124,238 円 繰越金 424,982 円
2025（Ｒ７） 年度	26,337,813（円）	下仁田町補助金 13,500,000 円 下仁田町観光協会会費収入 710,000 円 事業収入 2,850,000 円 こんにゃく手作り体験 下仁田ねぎ収穫体験 物販販売事業

様式１

		受託事業収入 　下仁田町暮らしの相談窓口業務 　県立妙義公園地域密着型公園管理業務 　下仁田町交流防災ステーション貸館及び清掃業務 雑収入 繰越金	7,509,000 円 5,000 円 1,763,813 円
2026（Ｒ８） 年度	28,515,000（円）	下仁田町補助金 下仁田町観光協会会費収入 事業収入 　こんにゃく手作り体験 　下仁田ねぎ収穫体験 　物販販売事業 受託事業収入 　下仁田町暮らしの相談窓口業務 　県立妙義公園地域密着型公園管理業務 　下仁田町交流防災ステーション貸館及び清掃業務 雑収入 繰越金	14,000,000 円 730,000 円 3,130,000 円 8,150,000 円 5,000 円 2,000,000 円
2027（Ｒ９） 年度	31,271,000（円）	下仁田町補助金 下仁田町観光協会会費収入 事業収入 　こんにゃく手作り体験 　下仁田ねぎ収穫体験 　物販販売事業 受託事業収入 　下仁田町暮らしの相談窓口業務 　県立妙義公園地域密着型公園管理業務 　下仁田町交流防災ステーション貸館及び清掃業務 雑収入 繰越金	15,000,000 円 750,000 円 3,616,000 円 8,900,000 円 5,000 円 3,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４） 年度	15,193,965 **（円）**	PR 公益事業 観光収益事業 こんにゃく手作り体験事業 妙義施設管理事業 移住定住事業 ねぎ収穫体験事業 DMO 関連事業 防災交流受託事業	4,150,784 円 817,864 円 995,591 円 2,918,595 円 2,966,446 円 898,112 円 1,660,904 円 785,669 円
2023（Ｒ５） 年度	28,409,203 **（円）**	会議費 接待交際費 管理諸費 事務費 人件費 事業費 委託費 負担金 補助事業コンテンツ造成事業費	116,290 円 79,000 円 636,754 円 2,826,746 円 10,101,092 円 4,617,075 円 2,349,530 円 346,000 円 7,336,716 円
2024（Ｒ６）	20,955,743（円）	会議費 接待交際費	90,602 円 129,532 円

様式１

年度		管理諸費	684,034 円
		事務費	2,625,595 円
		人件費	9,493,778 円
		事業費	4,978,318 円
		委託費	2,557,884 円
		負担金	396,000 円
2025（Ｒ７） 年度	24,337,813（円）	会議費	100,000 円
		接待交際費	100,000 円
		管理諸費	700,000 円
		事務費	3,132,000 円
		人件費	9,200,000 円
		事業費	3,780,000 円
		受託事業経費	6,924,000 円
		負担金	396,000 円
		予備費	5,813 円
2026（Ｒ８） 年度	25,515,000（円）	会議費	110,000 円
		接待交際費	110,000 円
		管理諸費	700,000 円
		事務費	3,000,000 円
		人件費	11,000,000 円
		事業費	3,050,000 円
		受託事業経費費	7,035,000 円
		負担金	396,000 円
		予備費	114,000 円
2027（Ｒ９） 年度	27,771,000（円）	会議費	120,000 円
		接待交際費	120,000 円
		管理諸費	700,000 円
		事務費	3,000,000 円
		人件費	12,000,000 円
		事業費	3,310,000 円
		受託事業経費費	8,010,000 円
		負担金	396,000 円
		予備費	115,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

自主事業収入の増加、経費の見直し
・下仁田ねぎが大凶作であり、生産量が少なく「道の駅しもにた」来訪者のニーズを満たせていない実態。観光農園で栽培する下仁田ねぎのうち、収穫体験で使用しなかった下仁田ねぎを「道の駅しもにた」にて販売、収益化に繋げた。また令和７年度は下仁田ねぎの生育面積を拡充し、さらなる収益増加を図る。
・こんにゃく手作り体験の経費見直しを行なっていく、体験の効率化及び体験価格を見直し、収益増加を図る。
・モータースポーツヒストリーアーカイブ事業に着手。下仁田の近代文化としてモータースポーツの歴史をまとめ、ヒストリカルブランディングによる観光誘客及び知名度向上を図るとともに、「道の駅しもにた」を拠点とした観光コンテンツ、高付加価値な土産物造成、モータースポーツ関連企業の受け入れ環境整備及び商品化等による収益事業モデル確立を目指す。
・フィルムコミッションとして、可能な限り撮影対応。メディア露出の機会を増やし、低コストでの観光プロモーションを図る。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

【下仁田町商工観光課】
下仁田町は「第２期下仁田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間終了に併せて、令和７（2025）年度から令和１１（2029）年度を計画期間とした「下仁田町デジタル田園都市構想総合戦略」を策定しました。前計画の趣旨を継承し「将来に向けて地域資源を活かした産業振興や観光振興とともに、地元で安定的に働くことのできる場の創出や雇用確保、若い世代が安心して子どもを産み育てることができる環境整備に積極的に取り組んでいく。」こととしています。具体的には「地域資源の魅力強化と内外への周知」「新たな人の流れの開拓と移住定住の促進」「多様な媒体を活用した情報発信」「森林資源の持続的な利活用」「特産品の魅力の発信」などが示されており、これらを達成するために観光地域づくり法人（ＤＭＯ）がより効果的な観光振興等の施策の立案と関連する事業の取り組みに期待しています。
【群馬県甘楽富岡振興局富岡行政県税事務所】
今後も、関係者・機関と連携して観光資源を磨き上げ、下仁田町への誘客等につなげていただきたい。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
（例）エリアが重複する●●ＤＭＯとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	津金澤　英美

担当部署名（役職）	CMO
郵便番号	370-2603
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字馬山 3766-11
電話番号（直通）	0274-67-7500
ＦＡＸ番号	0274-67-7501
Ｅ－ｍａｉｌ	dmocmo@icloud.com

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	群馬県下仁田町
担当者氏名	竹内　誠
担当部署名（役職）	商工観光課　課長
郵便番号	370-2601
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田 682
電話番号（直通）	0274-64-8805
ＦＡＸ番号	0274-82-5766
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.shimonita.lg.jp

都道府県･市町村名	群馬県甘楽富岡振興局富岡行政県税事務所
担当者氏名	伊藤　暢康
担当部署名（役職）	次長（総務振興係長）
郵便番号	370-2454
所在地	群馬県富岡市田島 343-1
電話番号（直通）	0274-62-9525
ＦＡＸ番号	0274-63-5141
Ｅ－ｍａｉｌ	i-nobu@pref.gunma.lg.jp

（登録）【地域DMO】一般社団法人下仁田町観光協会

様式2

記入日： 令和7年 7月 31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
群馬県下仁田町
【設立時期】 平成26年8月12日
【設立経緯】
町から独立し一般社団法人となり、その後DMOに登録
【代表者】 神戸 康宏
【マーケティング責任者（CMO）】 津金澤 英美
【財務責任者（CFO）】 吉川 圭市
【職員数】 5人（常勤2人（正職員0人・出向等2人）、非常勤3人）
【主な収入】下仁田町補助金 12,000千円、収益事業 5,546千円、受託事業 3,950千円（令和6年度決算）
【総支出】事業費 4,978千円、一般管理費 13,024千円、委託事業経費2,558千円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】
下仁田町商工会、下仁田町森林組合、下仁田町旅館組合、下仁田町飲食店組合、防災・重点道の駅しもにた（産業開発しもにた）、下仁田ジオパーク協議会、上信電鉄㈱、（公財）神津牧場、白石工業㈱、東海ガス㈱ 、下仁田町蒟蒻消費拡大推進協議会、（一財）群馬県森林・緑整備基金、（公財）群馬県観光物産国際協会、群馬県コンベンションビューロー、ぐんまフィルムコミッション、高崎経済大学井手拓郎ゼミナール

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	268 (–)	270 (–)	285 (–)	285 (–)	290 (–)	295 (–)
	実績	269 (–)	283 (–)	262 (–)	—	—	—
延べ宿泊者数（人）	目標	3,860 (–)	3,970 (100)	2,900 (30)	2,900 (30)	3,000 (30)	3,000 (30)
	実績	3,433 (–)	2,816 (20)	3,408 (67)	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	55 (–)	68 (–)	55 (–)	70 (–)	70 (–)	70 (–)
	実績	77.1 (–)	51.7 (–)	60.3 (–)	—	—	—
リピーター率（%）	目標	50 (–)	75 (–)	70 (–)	70 (–)	70 (–)	70 (–)
	実績	67.3 (–)	69.5 (–)	71.8 (–)	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
①首都圏の小中学校及び教育団体
②頭文字Dのファン、カーマニア、モータースポーツ関連企業
③インバウンドを含む広域旅行客
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
①こんにゃく手作り体験、下仁田ねぎ収穫体験の販売。森林空間を利活用コンテンツの造成。
②ヒストリカルブランディング。高付加価値商品造成。企業の受け入れ体制整備。クルマ文化で稼ぐ仕組みの構築。
③観光2次交通の検討、環境整備。
【観光地域づくりのコンセプト】
モジョタウン下仁田
5つの取り組み（食、体、歌、催、発信）を連携
8つの観光魅力資源の磨き上げ

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・こんにゃく手作り体験
・下仁田ねぎ収穫体験
・「究極のSHIMONITAすき焼き」造成
・クルマ文化のアーカイブ
・森林空間活用コンテンツ検討
【受入環境整備】
・観光農園「モジョファーム」整備
・フィルムコミッション設立
・インバウンドツアー対応
・分散型宿泊施設、2次交通の検討
・案内看板の検討

【情報発信・プロモーション】
・観光協会公式WEBサイト更新
・花の名所開園情報及び開花情報
開園期間中、SNSにて情報発信
・観光PRイベント、物産展参加
・MICE参加
・フィルムコミッション対応
・観光案内所の整備
案内所での映像PRを開始